

NISA班 ← プラス対応チーム

取扱注意 公開不可

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 8 月 29 日 (月) 11:00~11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 25 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (8月29日 6:00 現在)

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 本日、2Fの4号機格納容器内部を点検するとのことだが、何故4号機から実施するのか。また具体的に何を調査するのか。

A. 1~4号機は既に冷温停止中であり、4号機は残留熱除去系の復旧およびD/Gの復旧が一番進んでいる状況であり、健全性を確認できているため実施することになった。保安規定や法令上の条件があるわけではないが、注水が多様化できている状況を踏まえて実施するもの。なお、調査内容としては、格納容器内部の健全性確認および制御棒1本のドリフト警報発生の原因究明を行う予定。

Q. 健全性の確認とは具体的にはどのような内容なのか。地震の揺れおよび津波発生後、イレギュラーな操作を実施しており、その影響について改めて健全性を確認する、という理解でよいか。また、優先順位としてどの設備を確認する予定なのか。

A. 事故後の格納容器の圧力については警報値の圧力を超えているため、格納容器内部の機器の状況については目視で確認することになる。

本日は線量測定が目的であるので、目視で何かを確認する予定はない。まずは格納容器に入るための装備を決めることになる。その後、一通り目視点検を行い、ポイント絞って確認することになると思う。

Q. 制御棒のドリフト警報の発生原因は。

A. 今のところ制御棒の位置検出器の不具合と考えている。検出器は圧力容器底部にあり、今後点検を行う予定。

Q. 制御棒そのものの挙動には問題はなく、検出器そのものの誤差なのか。

A. その通り。検出器の確認については目視確認を実施した後、必要に応じて取り外す可能性もあると思う。

Q. [redacted]であれば、まずはどの場所を優先的に確認すべきと考えているのか。
A. 原子炉の多くの設備については、事故を想定した上で設計・製造を行っており、特別どの場所を確認すべき、ということはない。まずは全体を確認することが必要と考えている。実際には4号機は高圧炉心スプレイ系で注水した実績があるので、そのラインを確認することはあるかもしれないが、注水も問題なく出来ており、何か大きな原因になるような場所はないと考えている。

Q. 2号機 RPV ベローシールの温度が昨日の何時と比較して上昇していることを確認したのか。

A. 前日の17時時点では72℃であったが、本日5時時点では120℃に上昇した。

Q. 今回の事象は、2号機 RPV ベローシール温度計単体の不良と想定しているのか。

A. 現時点ではおそらく接点不良ではないかと思う。

Q. 他の箇所で温度が上昇しているということは確認されていないのか。

A. 現時点ではそのような傾向は確認できていない。全体として上昇傾向であれば格納容器内に何か変化があるということが言えるかもしれないが、1つの指示値のみ上昇しており、計器不良と考えている。

Q. 今後、温度計を修理する予定はあるのか。

A. 現時点では2号機建屋内に入城できる状況ではないので、まずは全体の経過観察を行いたい。

Q. 2号機 RPV ベローシールの値が不明のままであっても問題ないのか。

A. ベローシール部分の信頼性がなくなることはなるが、この点が不良のままだとしても、原子炉内部の状況が不明になることはない。

Q. 2Fの4号機格納容器内に作業員は既に入っているのか。

A. 本日10時15分に入っている。作業員の数は予定では10人であるが、実績については本日午後の会見にてお知らせさせて頂きたい。

以上